

申請者の現状(基本情報)

作成日	令和8年10月〇〇日	相談支援事業者名	相談支援センター ひまわり	計画作成担当者	藤山
-----	------------	----------	---------------	---------	----

1. 概要(支援経過・現状と課題等)

【支援経過】
定時制高校卒業後、療育手帳を持っていることを言わずに地元のスーパーに就職。最初は総菜部門に配属され、総菜のバック詰めや陳列作業等に従事していた。スーパーでは、マニュアルや優しい先輩の指導のもと、半年ほどで1人で業務をこなすことができるようになった。1年が経過し、色々な業務を覚えていくために、レジカウンター部門へ異動になった。しかし、レジ操作の習得に時間がかかり、「レジに時間がかかる」「接客態度が暗い」等の客からのクレームや上司からの叱責が多くなり、精神的に辛くなり退職した。
退職後、半年くらいは両親の伝手で引越し業者や回転寿司屋などでアルバイトをしていたが、他者と一緒にする業務や手順が多い業務だとうまくいかず叱責を受けることが多くなり、数週間 ～ 2ヵ月程度で退職した。そのうち外出することもなくなり、そんな状態を心配した母が、長女からの勧めでA市福祉課を訪ねたところ、A市相談支援センターかがやき(委託相談支援事業所)に繋がった。本人は、「働きたい気持ちもあるけど、怒られるのが怖い」「姉弟や友人のように働いている人がうらやましいけど、働くことに自信がない」「友人のように、いつか一人暮らしをしたい」と話していた。そのため、地域にある福祉事業所(就労継続支援B型事業所、グループホーム)の見学をすることになった。

【現状と課題】
退職を繰り返し、自宅での生活が続いていたが、家族と話し合えたことで働きたいと思うようになった。しかし、『叱責された経験から自信がない、怒られることが怖い』、『家事や金銭面の管理などの経験が少ない』、『他者の力を借りることや相談することに慣れていない』、『不規則な生活が続いている』等の課題があるため、就労継続支援B型事業やグループホームの利用を通して支援していくことになった。

2. 利用者の状況

氏 名	米田 誉 様	生年月日	平成16年4月2日	年 齢	22歳
住 所	〇〇県A市〇〇12-34			電話番号	077〇-12-3456
	(持家)・借家・グループ/ケアホーム・入所施設・医療機関・その他()]			FAX番号	077〇-12-3457
障害または疾患名	軽度知的障害(療育手帳B2)	障害支援区分	区分2	性別	(男)・女

家族構成 ※年齢、職業、主たる介護者等を記入

```
graph TD
    GP[母方の祖父母は死去] --- G[祖母 (同居：要介護3)]
    G --- F[父 (50代) (会社員)]
    G --- M[母 (50代) (主たる介護者、主婦)]
    F --- S[姉 (26歳) (福祉施設勤務)]
    F --- N[本人 (22歳)]
    M --- N
    M --- B1[弟① (19歳) (大学生)]
    M --- B2[弟② (19歳) (大学生・県外在住)]
```

社会関係図 ※本人と関わりを持つ機関・人物等(役割)

```
graph LR
    N[本人] --- F[家族]
    N --- AW[ A市福祉課 ]
    N --- AKS[ A市相談支援センターかがやき (委託相談支援事業) ]
    N --- CS[ 相談支援センターひまわり (特定相談支援事業) (障害児相談支援事業) ]
    N --- S[ スマイル (就労継続支援B型事業所) ]
    N --- YH[ ゆのまちハウス (共同生活援助事業) ]
```

生活歴 ※受診歴等含む

H16年(出生):米田家の長男として出生
H17年(1歳):保育園(入園)
H19年(3歳):3歳児健診時に言葉の遅れ等で要観察になる。
H22年(6歳):就学前健診時(特別支援学級判定→両親は普通学級に就学希望)
H23年(7歳):小学校入学(普通学級)
H25年(9歳)5月:小学校3年生(学習についていけない等の辛さから、学校や児童クラブへの行き渋りや欠席が増える)
8月:小学校3年生(夏休みに療育センター受診 → 発達検査実施、軽度知的障害の診断)
10月:小学校3年生(療育手帳(B2)取得)
2月:小学校3年生(放課後等デイサービス利用のため、相談支援センターひまわり(障害児相談支援事業所)にて計画相談開始)
H26年(10歳)4月:小学校4年生(支援学級に移籍、放課後等デイサービス利用開始)
H29年(13歳)4月:中学校入学(特別支援学級、卓球部入部により放課後等デイサービスの利用終了)
R2年(16歳)4月:定時制高校入学
R4年(18歳)11月:高校3年生(母からの強い勧めで自動車学校に通う)
R5年(18歳)1月:高校3年生(4回目の挑戦で自動車免許取得)
R5年(19歳):高校卒業後、高校の就職支援で地元のスーパーに就職。総菜部門でバック詰めや陳列などに従事。
R6年(20歳):就職して約1年後、レジ部門に異動。客からのクレームや上司からの度重なる叱責でミスが多くなり欠勤が続く。
R7年(21歳)1月:スーパーを自己都合により退職
2月～5月:家族の伝手でアルバイトをするが長続きしない。
6月頃:就業意欲の低下に伴い外出も減り、自宅で過ごすようになる。そのため、両親と今後について話し合う。
R8年(22歳)1月:姉からの勧めもあり、母がA市福祉課に相談する。
2月:母がA市相談支援センターかがやき(委託相談支援事業所)に相談する。
4月:相談支援センターひまわり(特定相談支援事業所)につながる
6月:福祉サービスの利用に向け、スマイル(就労継続支援B型事業所)見学。
7月:ゆのまちハウス(グループホーム)見学と体験利用をする。
8月:スマイル(就労継続支援B型事業)の体験利用をする。

医療の状況について ※受診科目、頻度、主治医、疾患名、服薬状況等

【受診先及び科目】
西村病院(内科)
主治医:西村医師
疾患名:かかりつけ医であり、風邪等の際に通院するのみで定期薬服用はない。
*健康状態に問題はなく、ほとんど病院に行ったことがない

本人の主訴(意向・希望)	家族の主訴(意向・希望)
両親からは、ずっと頑張れと言われてきました。でも、学校時代はできないことが多くて辛かったです。スーパーで働いていた時はできることもあったけど、お客さんや上司から怒られて辛かった思い出の方が多いです。スーパーを辞めてから両親の紹介でいくつかのアルバイトをやったけど、何をやっても上手くいかなくて続かなかったです。本当は、姉弟や友人のように働きたいです。そして友人のように、いつか一人暮らしをしたいです。でも、一人暮らしもどうしたらいいかわからないし、もう怒られるのは嫌です。いろいろ困ってるけれど、それもどうしたらいいのかわかりません。	・私たち親が生きている間は、できることはしていきたいと思っています。ただ、私たちが亡くなった後の生活が心配です。姉弟もいて、協力してくれるとは言っていますが、それぞれに自分たちの人生を歩んで欲しいので、誉には自分の事は自分でできるようになって欲しいです。自立した生活を送れるようになって欲しいです。 ・今となっては、誉のために厳しく躰をしてきたことが、かえって誉を追い込み、辛い思いをさせていたのだと気づき、今後親として何ができるのかを考えながらサポートしていきたいと思っています。誉には、自信を持って、自分の人生を謳歌し、姉弟と仲良くやっていって欲しいと思っています。

3. 支援の状況

	名称	提供機関・提供者	支援内容	頻度	備考
公的支援 (障害福祉サービス、介護保険等)	・相談支援事業 (特定相談支援事業所)	特定相談支援センターひまわり 相談支援専門員:藤山	計画相談	適時	
	・就労継続支援B型事業	就労支援センタースマイル サービス管理責任者:川瀬氏	就労支援	週5日 (月～金)	
	・共同生活援助事業	ゆのまちハウス サービス管理責任者:松嶋氏	日常生活支援 家事等の習得支援	週7日 (月～日)	
その他の支援	・相談支援事業 (委託相談支援事業所)	A市相談支援センターかがやき	・福祉サービスを利用するための情報提供、相談 ・社会資源を活用するための支援 ・専門機関の紹介 等	必要に応じて	